

Sat. Jul 8, 2017

Poster Presentation Area

Poster(multiple job category) | 家族支援

Poster (multiple job category) 1 (II-TRP1)

Chair:Mitsuyo Wada(Shizuoka Children's Hospital)

6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

[II-TRP1-01] 心疾患産婦と非心疾患産婦の育児状況に関する調査

○福岡 睦子¹, 桂木 真司² (1.榊原記念病院 看護部, 2.榊原記念病院 産婦人科)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP1-02] 先天性心疾患と出生前診断を受けた妊婦の支援の検討～ PICU看護師の出生前訪問を振り返って～

○福田 あずさ¹, 荒木 美樹¹, 平田 裕香¹, 福島 富美子¹, 田中 健佑², 下山 伸哉², 宮本 隆司³, 小林 富男² (1.群馬県立小児医療センター 看護部, 2.群馬県立小児医療センター 循環器科, 3.群馬県立小児医療センター 心臓血管外科)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP1-03] PICUに入室した子どものプライバシーに対する家族の意識調査

○細野 由華, 高井 史子, 長柄 美保子 (岐阜県総合医療センター)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP1-04] 先天性心疾患を合併した予後不良な奇形症候群への終末期医療への関わり

○田倉 麻衣¹, 池田 治美¹, 増尾 来美¹, 野村 朱里¹, 関美穂子¹, 水野 将徳², 都築 慶光², 吉岡 千恵子¹, 吉川 喜美枝¹, 麻生 健太郎² (1.聖マリアンナ医科大学看護部, 2.聖マリアンナ医科大学 小児科)

6:15 PM - 6:40 PM

Poster(multiple job category) | 家族支援・ケア実践

Poster (multiple job category) 2 (II-TRP2)

Chair:Atsuko Morisada(Kurashiki Central Hospital)

6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

[II-TRP2-01] 患者、家族のニーズにあった情報提供を目指す

○大石 志津 (静岡県立こども病院)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP2-02] 先天性心疾患児をもつ外国人家族のニーズ～A病院 PICUの外国人家族に対する支援策を見出すための現状把握～

○金子 友加里¹, 樋口 沙織¹, 福島 富美子¹, 笹原 聡豊², 下山 伸哉³, 宮本 隆司², 小林 富男³ (1.群馬県立小児医療センター 看護部, 2.群馬県立小児医療センター 心臓血管外科, 3.群馬県立小児医療センター 循環器内科)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP2-03] 先天性心疾患児をもつ家族へのサポートグループの導入

○小川 理絵子¹, 小田 巻 由夏¹, 嶋田 一樹², 水島 みゆき², 倉橋 郁乃¹, 大石 知亜美¹, 新井 希¹, 中村 泉¹ (1.静岡県立こども病院 循環器病棟, 2.静岡県立こども病院 心理療法室)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP2-04] 先天性心疾患術後患児のライン事故抜去予防ならびに身体抑制に関するカンファレンス導入効果

○北山 未央¹, 矢鋪 恵理¹, 千原 由衣¹, 北浦 可陽¹, 西綾子¹, 辻 展行¹, 吉田 真寿美¹, 荒木 幹大², 石丸 和彦², 田口 利恵¹, 中村 常之³ (1.金沢医科大学病院 集中治療室, 2.金沢医科大学 小児心臓血管外科, 3.金沢医科大学 小児循環器内科)

6:15 PM - 6:40 PM

Poster(multiple job category) | 家族支援

Poster (multiple job category) 1 (II-TRP1)

Chair:Mitsuyo Wada(Shizuoka Children's Hospital)

Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

[II-TRP1-01] 心疾患産婦と非心疾患産婦の育児状況に関する調査

○福間 睦子¹, 桂木 真司² (1.榊原記念病院 看護部, 2.榊原記念病院 産婦人科)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP1-02] 先天性心疾患と出生前診断を受けた妊婦の支援の検討～ PICU看護師の出生前訪問を振り返って～

○福田 あずさ¹, 荒木 美樹¹, 平田 裕香¹, 福島 富美子¹, 田中 健佑², 下山 伸哉², 宮本 隆司³, 小林 富男² (1.群馬県立小児医療センター 看護部, 2.群馬県立小児医療センター 循環器科, 3.群馬県立小児医療センター 心臓血管外科)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP1-03] PICUに入室した子どものプライバシーに対する家族の意識調査

○細野 由華, 高井 史子, 長柄 美保子 (岐阜県総合医療センター)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP1-04] 先天性心疾患を合併した予後不良な奇形症候群への終末期医療への関わり

○田倉 麻衣¹, 池田 治美¹, 増尾 来美¹, 野村 朱里¹, 関 美穂子¹, 水野 将徳², 都築 慶光², 吉岡 千恵子¹, 吉川 喜美枝¹, 麻生 健太郎² (1.聖マリアンナ医科大学 看護部, 2.聖マリアンナ医科大学 小児科)

6:15 PM - 6:40 PM

6:15 PM - 6:40 PM (Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area)

[II-TRP1-01] 心疾患産婦と非心疾患産婦の育児状況に関する調査

○福間 睦子¹, 桂木 真司² (1.榊原記念病院 看護部, 2.榊原記念病院 産婦人科)

Keywords: 心疾患産婦, 産褥期育児生活肯定感尺度, アンケート調査

【背景】 A院心疾患産婦は NYHA 1 が多く、妊娠分娩時管理は必要だが産後は通常産婦と同様のケアを行っている。産後は生活環境、心身の急激な変化、疲労感増大や睡眠量減少を生じる。それらと産後の育児状況の関連性を考え、産後生活・家族サポート状況、ニーズを知ることで今後の支援を考えることとした。【目的】 妊娠～産後1ヶ月の育児生活、本人の希望支援、家族の支援現状を明らかにする。【方法】 調査期間2016年8月。自記式アンケート調査。A院出産の1年以内の心疾患産婦・非心疾患産婦、計100名を対象者とした。EXCEL2010を使用し統計処理を行った。倫理的配慮として当院倫理委員会の承認を得て調査を実施した。【結果】 心疾患産婦16名、非心疾患産婦39名（回収率55.0%）の回答を得た。産後1ヶ月間に一緒にいた支援者は、心疾患産婦：夫56.3%、非心疾患産婦：実母51.3%だった。産褥期育児生活肯定感尺度改訂版より「親としての自信」「自己肯定感」「生活適応」「夫のサポートに対する認識」の4因子を検討したが、今回の調査では全体として「親としての自信」得点が高く、経産婦に「自己肯定感」得点が高い傾向にあった。心疾患産婦では「生活適応」得点が高い傾向があったが「夫のサポートに対する認識」得点は高い傾向であった。非心疾患経産婦では「夫のサポートに対する認識」得点がやや低い傾向であった。【考察】 親としての満足感は、初産婦では育児行動に対する自信、経産婦では肯定的な自己評価と密接な関係を持ち、夫との関係性が母親の育児生活感情に大きく影響があると言われているが、今回も同様の結果がみられたと思われる。しかし、生活適応に関して心疾患産婦の得点が高い傾向にあり、通常の産後生活による心身の負担が大きいのではないかと推察された。

6:15 PM - 6:40 PM (Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area)

[II-TRP1-02] 先天性心疾患と出生前診断を受けた妊婦の支援の検討～

PICU看護師の出生前訪問を振り返って～

○福田 あずさ¹, 荒木 美樹¹, 平田 裕香¹, 福島 富美子¹, 田中 健佑², 下山 伸哉², 宮本 隆司³, 小林 富男² (1.群馬県立小児医療センター 看護部, 2.群馬県立小児医療センター 循環器科, 3.群馬県立小児医療センター 心臓血管外科)

Keywords: 出生前診断, 家族支援, 出生前訪問

【背景】 A病院では胎児家族支援ワーキンググループが活動しており、家族との関わりをカンファレンスシートに記載し継続的な支援を行っている。胎児が先天性心疾患（以下 CHDと略す）と診断された場合、小児集中治療部（以下 PICUと略す）看護師が家族に出生前訪問とパンフレットを用いた PICUのオリエンテーションを行っている。

【目的】 出生前訪問とパンフレットの内容を評価し出生前訪問時に求められるニーズを明らかにし、現在使用しているパンフレットの妥当性を検討する。

【方法】 平成24年10月～平成28年8月の間に CHDを疑われ A病院へ紹介受診となり、出生直後に児が PICUに入院した母親51名を対象とし、

1. 「出生前訪問」「配布したパンフレット」に関する質問紙調査を実施。質問紙回収後、記述統計量の集計とカテゴリー分類を行った。
2. カンファレンスシートを後方視的に振り返った。

所属施設の倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】 対象者のうち23名（45.1%）から研究の同意が得られた。PICU看護師が産科外来に訪問したことを記憶していた母親は82.6%で「PICUの雰囲気わかった」という回答が半数であった。PICU看護師の訪問を全員が「必要」と答えており、その理由は「心配・不安の軽減につながる」「PICUの雰囲気を把握できる」がそれぞれ

65.2%。PICU入室前に知りたい情報は「入院中の児に母としてできること」「面会の頻度」「出生後の児の様子や管理方法」という回答であった。カンファレンスシートには「入院期間」「赤ちゃんの持ち物」についての質問項目が多かった。

【考察】出生前訪問の必要性は確認できたが、現在の出生前訪問とパンフレットでは必要な情報が網羅されていなかった。今後はこの調査結果を基に出生前訪問の内容の見直しとパンフレットの改訂を行い、母親とその家族の思いに沿った看護を提供していく必要がある。

6:15 PM - 6:40 PM (Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area)

[II-TRP1-03] PICUに入室した子どものプライバシーに対する家族の意識調査

○細野 由華, 高井 史子, 長柄 美保子 (岐阜県総合医療センター)

Keywords: プライバシー, PICU, 家族

【背景】A病院小児集中治療室(以下PICUとする)では、オープン病床であり、ケアや処置時、家族の面会時などはパーテーションを使用して子どものプライバシー保護に配慮している。しかし、パーテーションを使用して空間の確保をしても隣のベッドの会話が聞こえている可能性があり、家族はそのような現状をどのように思っているのかと疑問に感じた。【目的】PICUに入室した子どものプライバシーについて家族がどのように捉えているのかを明らかにし、今後のプライバシーに関する看護のあり方を検討する。【方法】2016年4月～2016年12月の間にPICUに入室した経験のある子どもの母親30人を対象に独自に作成した質問紙によるアンケート調査とプライバシーに関する認識などを面接で聞き取った。本研究は所属機関の看護研究倫理審査委員会の承認を得た。【結果】プライバシーに関する質問では、全ての項目で「不快ではない」または「どちらかといえば不快ではない」との回答者が84%～97%であり、自由記述の結果でも「プライバシーは気にならない」など意見があげられた。一方で、8項目の質問のうち、とても不快という回答がみられた項目が、「面会中、他の家族が大きな声を出して話す」、「面会中、医療従事者が大きな声を出して話す」の2項目であった。PICU入室経験による比較では、初回群と入室経験ありの群の2群間で有意差をもって入室経験ありの群でプライバシー侵害意識の程度が高かった($p=0.026$)。【考察】パーテーションを使用することで空間の確保はできるが、家族や医療者の話し声によるプライバシー侵害があると家族は感じており、ベッドサイドで話をする際はできるだけ他の家族がいない時に話したり、音量を考慮して話すなどの配慮をすることで子どものプライバシーをより保護できると考える。【結論】家族の捉え方としては個人差があるが、家族や医療者の話し声によるプライバシー侵害があると感じていた。

6:15 PM - 6:40 PM (Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area)

[II-TRP1-04] 先天性心疾患を合併した予後不良な奇形症候群への終末期医療への関わり

○田倉 麻衣¹, 池田 治美¹, 増尾 来美¹, 野村 朱里¹, 関 美穂子¹, 水野 将徳², 都築 慶光², 吉岡 千恵子¹, 吉川 喜美枝¹, 麻生 健太郎² (1.聖マリアンナ医科大学 看護部, 2.聖マリアンナ医科大学 小児科)

Keywords: 奇形症候群, 終末期医療, 姑息手術

【緒言】小児において先天性心疾患(CHD)を合併する予後不良な奇形症候群は多数存在し、心疾患への侵襲的な治療介入が患児、家族の利益となるか判断は難しい。今回、CHDを有する奇形症候群で手術介入を経て在宅へ移行し、終末期医療にかかわることができた症例を経験したため報告する。【倫理的配慮】倫理委員会の承認を得て

から当事例の患者家族へ研究を行うことを口答、紙面にて説明し同意を得た。【症例1】2歳、女児、ファロー四徴症、染色体異常。(出生後の染色体検査にて診断)。ご両親は、長期生存は見込めない症候群と理解したうえで、在宅へ移行するための治療介入を希望された。生後約半年でBT shunt術、1歳時に気管切開術施行し、呼吸苦に対しモルヒネを導入した上で、退院となった。退院半年後、栄養管理困難となり、改めて終末期医療の説明を行いご両親の意向を確認したところ、自宅での見取りを希望された。訪問看護と連携を取り、往診医に入っただき、約6ヶ月後永眠された。【症例2】2歳、男児、福山型筋ジストロフィー、両大血管右室起始症、肺動脈狭窄症。出生後、筋疾患の疑いがあったが、NICUでは診断には至らず、CHDに対し、約10日後にBTshunt術を施行し、6ヶ月でNICUを退院した。退院後、遺伝子検査にて福山型筋ジストロフィーと診断、ご両親へ、予後不良な疾患である事を説明し理解したうえで、積極的介入は望まれず疼痛緩和の介入を希望された。2歳時、インフルエンザを契機に呼吸不全となり挿管管理を行ったが、それ以上の介入は望まれず、永眠された。【考察】CHDへの介入は侵襲的ではあるが、在宅医療へ移行できたことは、患児と家族にとって最善の利益であったことは間違いなく、家族の意向に十分に添うことができた。小児奇形症候群に対する治療方針は明確なものはないが、患児や家族の最善の利益が得られるように考えていく必要がある。

Poster(multiple job category) | 家族支援・ケア実践

Poster (multiple job category) 2 (II-TRP2)

Chair:Atsuko Morisada(Kurashiki Central Hospital)

Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

[II-TRP2-01] 患者、家族のニーズにあった情報提供を目指す

○大石 志津 (静岡県立こども病院)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP2-02] 先天性心疾患児をもつ外国人家族のニーズ ~ A病院 PICUの外国人家族に対する支援策を見出すための現状把握~

○金子 友加里¹, 樋口 沙織¹, 福島 富美子¹, 笹原 聡豊², 下山 伸哉³, 宮本 隆司², 小林 富男³ (1.群馬県立小児医療センター 看護部, 2.群馬県立小児医療センター 心臓血管外科, 3.群馬県立小児医療センター 循環器内科)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP2-03] 先天性心疾患児をもつ家族へのサポートグループの導入

○小川 理絵子¹, 小田巻 由夏¹, 嶋田 一樹², 水島 みゆき², 倉橋 郁乃¹, 大石 知亜美¹, 新井 希¹, 中村 泉¹ (1.静岡県立こども病院 循環器病棟, 2.静岡県立こども病院 心理療法室)

6:15 PM - 6:40 PM

[II-TRP2-04] 先天性心疾患術後患児のライン事故抜去予防ならびに身体抑制に関するカンファレンス導入効果

○北山 未央¹, 矢鋪 恵理¹, 千原 由衣¹, 北浦 可陽¹, 西 綾子¹, 辻 展行¹, 吉田 真寿美¹, 荒木 幹大², 石丸 和彦², 田口 利恵¹, 中村 常之³ (1.金沢医科大学病院 集中治療室, 2.金沢医科大学 小児心臓血管外科, 3.金沢医科大学 小児循環器内科)

6:15 PM - 6:40 PM

6:15 PM - 6:40 PM (Sat, Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area)

[II-TRP2-01] 患者、家族のニーズにあった情報提供を目指す

○大石 志津 (静岡県立こども病院)

Keywords: 家族支援, コミュニケーションツール, 情報提供

【背景】循環器集中治療室では入院中の過ごし方や退院後の生活について、症状に合わせたパンフレットを用いて説明しているが、急性期の家族は精神的な余裕が無いため、看護師が提供する情報を受け止められず情報が伝わりにくい。入院中や退院後の生活をイメージしやすくする方法の一つとして、病棟内にある掲示板を使用し、情報を提供することを考えた。【目的】掲示板を活用し、患者、家族のニーズにあった情報を提供する【方法】病棟スタッフ間で、どのような情報を提供するかを決定し、多職種の協力を得て写真や紹介文を掲示。退院指導の一つであるBLSの様子や、状態が安定後転棟する病棟の紹介、他部門の活動内容などを提示。掲示が2回更新された後、患者、家族へ質問紙調査の実施。本研究は倫理委員会の承認を得ている。【結果】研究対象者8組中8組より回答を得る。掲示の内容は、87%が参考になったと答え、掲示は続けたほうが良いという回答であった。家族の反応として、BLSのイメージができた、転棟する予定の病棟の雰囲気伝わったという感想が聞かれた。また、今後掲示して欲しい内容では、病院のインフォメーション、各部門の紹介や活動内容、病棟のお知らせ、というニーズが得られた。【考察】家族が精神的な余裕を持たせた時に、病棟内の掲示板から視覚的情報が得られ、入院中や退院後の生活を考えるきっかけになり、掲示板を有効活用できたと考える。また多職種と掲示物内容を検討したことで、患者、家族に必要な情報の提供ができたと思われる。さらに、家族は、発信した情報から入院中や退院後の生活がイメージしやすくなり、具体的な質問や不安の表出ができるようになったと考える。掲示板の情報提供方法を見直したことで、家族への情報が伝えやすくなり、有効なコミュニケーションツールの一つになったと考える。【結論】効果的な情報発信は、看護の役割であり、掲示板は容易に活用できるツールのひとつである。

6:15 PM - 6:40 PM (Sat, Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area)

[II-TRP2-02] 先天性心疾患児をもつ外国人家族のニーズ～A病院 PICUの外国人家族に対する支援策を見出すための現状把握～

○金子 友加里¹, 樋口 沙織¹, 福島 富美子¹, 笹原 聡豊², 下山 伸哉³, 宮本 隆司², 小林 富男³ (1.群馬県立小児医療センター 看護部, 2.群馬県立小児医療センター 心臓血管外科, 3.群馬県立小児医療センター 循環器内科)

Keywords: PICU, 先天性心疾患, 外国人家族

【背景】A病院PICUには先天性心疾患(CHD)や心臓外科手術後の重症患者が入院している。入院患者には外国人もいるが、日本人でも理解するのが困難な病状・術式や各種説明が正しく伝わったか、入院中に困惑させた事はなかったかを改めて調査していない。そこで入院中の外国人家族のニーズについて現状把握が必要と考えた。【目的】CHD児をもつ外国人家族のニーズを明らかにし、入院中に必要な支援策を見出す。【方法】日本語で日常会話が可能で外国人家族(フィリピン・中国・ブラジル)に半構造化面接を実施、そのデータから類似しているニーズをカテゴリー化し内容分析した。【倫理的配慮】対象者に個人情報の守秘など口頭・書面で説明し同意を得ると共に、院内の倫理委員会の承認を得て行った。【結果】回答から、収入格差によらない医療、医師による患者の病状・手術説明、看護師による入院・病棟案内、プライバシーへの配慮、家族の要望、病院の設備・体制、の6カテゴリーが抽出された。【考察】対象者の母国では、受けられる医療が収入により左右されていたが、日本では保健医療制度で全患者が治療を受けられるため医療に対する要望は満たされていた。医療者からの説明では「図・絵・模型を用いた視覚的資料」が有効であったが、「日本語の説明文の理解に時間がかかった」との記述から、文面での説明を分かりやすくする必要がある。また「宿泊棟や小児集中治療室があること」で病院設備への満足は得られたが、「プライバシーに配慮して欲しい」や「処置中も側にいたい」「説明を受ける時同胞をみて欲しい」という家族の要望も明らかになった。これらは、外国人家族だけでなく入院中の全

家族に共通するニーズであり、病院全体として取り組む必要がある。【結論】日本語での説明は視覚的資料を用いることが有効だった。また調査で得られたニーズは、外国人家族だけではなく入院中の全家族に共通するニーズだった。

6:15 PM - 6:40 PM (Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area)

[II-TRP2-03] 先天性心疾患児をもつ家族へのサポートグループの導入

○小川 理絵¹, 小田 巻 由夏¹, 嶋田 一樹², 水島 みゆき², 倉橋 郁乃¹, 大石 知亜美¹, 新井 希¹, 中村 泉¹ (1.静岡県立こども病院 循環器病棟, 2.静岡県立こども病院 心理療法室)

Keywords: 家族のピアサポート, 心理士の介入, 家族ダイナミクス

【背景】先天性心疾患児をもつ家族は、育児や療育に対する不安が大きく、退院後の生活をイメージすることが難しい。【目的】家族同士が感情を吐露することで、先天性心疾患児を持つ家族の自責の念や、孤独感を軽減し、退院について肯定的に考えるきっかけを作る。【研究方法】対象:A病院入院中の先天性心疾患児の両親、主に初回入院の新生児の家族。方法1.看護師から疾患に関連する制度など10分間の講義後、心理士と看護師を含めた10人以内のサポートグループを構成し90分の語りを実施する。2.語りの後、アンケートや面談から、家族の想いを抽出し、サポートグループの語りをもたらず影響を質的に検討する。【倫理的配慮】A病院の倫理審査の承認を得ている。【結果】語りの内容は“自己紹介”“児の診断を受けた時の気持ち”“今の想い”“今悩んでいることや感じていること”などの項目を、その時のグループの会話の流れを考慮して展開した。実施後、回答を得た全員が参加してよかったと答えた。理由は“悩んでいるのは自分達だけではないと気付いたこと”“同じように大変な思いをしても前向きにとらえようとしている家族がいることを知ったこと”“手術を経験した家族に勇気づけられたこと”などがある。また“もっと早い段階で会に参加できればよかった”“次も機会があれば参加したい”との意見があった。【考察】サポートグループは、家族にとって安全な場として認識され、感情を吐露することで安寧をもたらし、不安を軽減させる。グループダイナミクスによりこれからの療育に対するイメージが拡大される。【結論】サポートグループでの語りは、家族が不安を吐露し、悩みを共有し整理することで、自責の念や孤独感を軽減させるのに有効である。サポートグループでの語りは退院を肯定的に考えるきっかけには直結しないが、退院を肯定的に考えるための前段階に、有効な介入の一つである。

6:15 PM - 6:40 PM (Sat. Jul 8, 2017 6:15 PM - 6:40 PM Poster Presentation Area)

[II-TRP2-04] 先天性心疾患術後患児のライン事故抜去予防ならびに身体抑制に関するカンファレンス導入効果

○北山 未央¹, 矢鋪 恵理¹, 千原 由衣¹, 北浦 可陽¹, 西 綾子¹, 辻 展行¹, 吉田 真寿美¹, 荒木 幹大², 石丸 和彦², 田口 利恵¹, 中村 常之³ (1.金沢医科大学病院 集中治療室, 2.金沢医科大学 小児心臓血管外科, 3.金沢医科大学 小児循環器内科)

Keywords: カンファレンス, ライン事故抜去予防, 身体抑制

【背景】当院集中治療室は、2012年7月より先天性心疾患術後患者受け入れを再開し、近年手術件数が増加している。こども専門病院と異なり成人患者も混合する集中治療室のため、試行錯誤の中、小児術後患者の受け入れ態勢を整えてきた。しかし小児術後患者におけるライン類(気管チューブ、胃管、末梢・中心静脈・動脈ライン)の事故抜去件数が増加し、予防策が急務であった。またラインの挿入位置、場所の確認は担当者のみで実施していたため2016年10月からライン事故抜去予防のカンファレンスを導入した。【目的】カンファレンス導入の効果を検討する。【方法】カンファレンスを導入しその前後でライン事故抜去の件数を調査した。実施方法は毎朝

リーダー看護師2名、担当看護師の計3名で行い、患児とラインの位置関係、当日抜去予定ラインの有無、固定による不快感等の有無、抑制を実施する場合は妥当性や代替案の有無、ライン整理、固定方法の検討に加え、留置中のすべてのラインの長さの確認を追加した。術直後は患児覚醒前にシーネ固定とライン整理を行い、四肢がラインに接触しない範囲の可動で最低限の抑制とした。また、シリンジから刺入部までを辿り緊急時の薬剤投与に対応可能なライン整理を毎日の業務とした。【結果】カンファレンス導入前後でライン事故抜去件数は2012年1/29例(3%)、2013年6/31例(19%)、2014年7/45例(15%)、2015年9/47例(19%)から2016年は2/60例(3%)へ減少した。また、特に強化したライン挿入位置確認の実施率は、カンファレンス導入後10月83.3%、11月80%、12月100%となった。【考察】ライン事故抜去予防には、カンファレンス導入により身体抑制のみを行う認識から適切なライン整理や固定方法へ視点を移し、かつ複数の異なる視点での確認と情報共有することが重要と考えられた。【結語】カンファレンス導入後、看護スタッフのライン固定に対する意識向上により、事故抜去件数を減少できた。